

○第4次一関市食育推進計画（案）に対するご意見の概要及びご意見に対する考え方

パブリックコメント募集期間：令和4年2月1日～令和4年2月14日

ご意見数： 6件（2人）

No.	該当項目	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
1	P15 ③健康寿命の延伸につながる食育の推進	健康寿命の延伸は食育の推進だけではなく、新しい取組である「フレイル予防活動（三本柱と言われている栄養（食、口腔）に加えて、運動・社会参加（孤立の予防）」に各部署が連携して取り組むことが必要。また、フレイルの一つである口腔フレイルの意味や口腔フレイル予防と孤食の予防について、食育を通して具体的な情報提供が必要。他市では2月1日をフレイルの日として取組をしており、一関市でもフレイルの日としての取組が必要。	ご意見については、今後の取組の参考とさせていただきます。
2	P21 ライフステージについて（高齢期）	高齢期（65歳以上）となっているが、前期高齢者（65歳から74歳まで）と後期高齢者（75歳以上）では大きく状態が変わり、取組の内容も異なると思うので、前期と後期に分けて取組を考える必要がある。（前期高齢者の約8割が元気な高齢者と言われている。）	高齢者には、咀嚼能力の低下、消化・吸収の低下、運動量の低下に伴う摂取量の低下の課題がありますが、これらは、年齢だけでなく個人差が大きく、高齢者の多くが何らかの疾患を有しているという特徴があるため、前期高齢者のうちから取り組んでまいります。
3	P21 ライフステージについて（高齢期）	高齢期で重要になる栄養素は、「たんぱく質」と言われている。フレイル予防の一つであるサルコペニア予防のために「たんぱく質」を摂り筋肉をつけることが転倒予防になるため、「たんぱく質」の必要性を強調してもいいのではないかと。	P21 下段「高齢期（65歳以上）」を修正 「 <u>年齢とともに食欲が低下して低栄養状態を招き、筋肉量の減少（サルコペニア）につながる恐れがあります。食事は活力の源です。エネルギーとたんぱく質をしっかりと摂りましょう。食事や会話を楽しむため、口腔機能を保って個人の健康状態に合わせた食生活や生活習慣を維持し、フレイル予防のため自身の健康管理が重要です。</u> 」  P22～23各ライフステージの目指す方向と食育推進目標の「高齢期（65歳以上）」の取組に「口腔の健康

			を保ち、低栄養を予防しましょう。」を追加。
4	P21 ライフステージについて (高齢期)	高齢者が健康で元気で活動的であれば、若者から支えられるのではなく、社会を支える側に立てるので、食育には、食事の重要性を伝え、バランスの取れた食事をとり元気な高齢者になるよう行動変容を起こすことが求められている。	あらゆる機会を通じて食の重要性を伝え、生涯を通して栄養バランスに配慮した食事の実践に向けた食育を推進し、食育関係者の取組を充実してまいります。
5	計画・周知について	計画は目標を達成する手段だが、計画を立案することが目的になってしまうことがあると考える。計画に掲げられた事が絵に描いた餅にならずに実行される事が重要。 周知については、市民が関心を持って取り組むことができる行動変容が起きるための全く新しい周知の仕方を考える必要がある。	計画の推進にあたっては、一関市食育推進協議会が、食育推進関係者の取組状況や計画の進捗状況を把握し、定期的な評価を行い、適切な進行管理に努めることとしています。また、周知については、概要版を作成し、市広報と併せて全世帯に配布を予定しているほか、市民の皆様が関心を持って取り組めるよう「新たな日常」やデジタル化に対応した情報発信にも取り組んでまいります。
6	P1 1章 1趣旨 「家族や地域笑顔でつながる食育の環」	<提案> 「小学校で野菜を栽培して100円均一の産直をつくる」 <理由> 「食べる」＝「生きる」＝「お金」 お金は「廻す」もの、それが「食育の環」と考える。子どものうちから「生きるためにお金を廻す」、「生きるために食を廻す」ことを学ぶべき。それが、地域に根差す「ひやくしょう」文化です。	ご意見については、今後の取組の参考とさせていただきます。